第３学年授業改善推進プラン　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　小平市立小平第八小学校

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の実態 | 改善プラン | 改善プランの評価方法 |
| 国語 | ①漢字は好きな児童が多く意欲的に取り組んでいる。学習した漢字を活用して文章を書く力が弱い。  ②話すこと・聞くことに関して、個人差が大きい。  ③事実と考えを区別して読んだり書いたりする力を身に付ける必要がある。 | ①小テストについては、返却後の直しをしっかりと行い、正しい漢字を定着できるようにする。他教科においても学習した漢字は色々な場面で活用して書かせるようにする。  ②発表のときなどに話し方の基本の徹底を図る。聞くときと作業するときを明確に分け、集中できるようにする。  ③国語の単元を利用して、文章の構成を学んだり、交流することで友達の文章から良いところを学んだりする場を設定する。書くことが苦手な児童には、インタビュー形式で個別支援をしていく。 | ①日々の確認テスト、学期のまとめテストの結果から評価する。  ②手を止めて相手の方に体を向けて、適度に相づちを打ちながら聞く姿勢が定着しているか評価する。  ③読むこと、書くことの学習活動の記述や構成の内容で評価していく。 |
| 算数 | 1. ４学級５展開で習熟度別指導をしている。加減法の筆算やわり算等の計算については、学習内容の定着度に個人差がある。 2. 学習に対して主体的に取り組む児童は多いが、苦手意識がある場合は、手だてが必要である。 | ①計算単元では適用問題に取り組む時間を長め設定したり、問題で取り扱う数値を変えてスモールステップで理解を深めるようにしたりして、コースの児童の実態によって工夫して指導を実施し、知識・技能面の向上を目指す。  ②授業中の様子やノートの記述から児童の考えの良さや頑張りを見付け、それを価値付け、自信をもてるように指導していく。 | ①単元テストの状況を学年で共有し、学習内容の理解度を確認する。  ②各人のノートや授業中の様子を観察し、学習に取り組む態度を評価する。 |
| 社会 | ①自分の住んでいる地域に興味をもって学習に取り組む児童が多い。自分の生活体験と学習内容を結び付けられるよう、丁寧な指導が必要である。  ②地図に興味はあるが、正しく読み取る力を身に付ける必要がある。また、方位や地図記号については、丁寧な指導が必要である。 | 1. ICT機器を活用するなど、教材を工夫し、自分たちの生活と結び付けられるような工夫をする。また、白地図やワークシートを使い、市の特色などを示す。   ②どの学習単元でも地図を効果的に活用し、方位や地図記号を繰り返し指導することで、社会科の基礎的な力を身に付ける。 | 1. ワークシートに取り組む姿勢や発言内容、ワークテストで評価する。   ②ワークシートやワークテスト、日々のノートの内容で評価する。 |
| 理科 | 1. 観察の学習では、観点を知り、具体的な視点をもって観察できるようになってきている。 2. 実験に対し、興味・関心が高い児童が多い。実験を正確に行う技能が身に付くよう指導していく必要がある。 | ①五感を働かせて気付いたことを書いたり、比較して考えをまとめたりすることを通して、観察する技能を育む。  ②実験の際には、実験の仕方（条件を統一すること）・手順・目的を明確にして、全員参加・全員理解の授業を目指す。 | ①観察中の様子やワークシートの観察の視点を評価していく。  ②実験中の児童の様子や考察の内容を見取ることで、全員が学習を理解しているか、評価していく。 |
| 体育 | 1. 体つくり運動や器械運動の領域で、基礎的な技能を身に付けさせる必要がある。   ➁友達と協力して、お互いに技能を高めようとする様子が見られる。 | 1. 技のポイントの指導、補助器具の活用、動画を使った自己分析等で技能の向上を目指す。   ➁友達と協力しながら運動する姿を称賛し、価値付けていく。友達との関わりを通して、全体の技能が向上するよう指導していく。 | ①学習指導要領の技の例示に示されている技と児童の実態を考慮し、何がどこまでできているかこまめに見取り、評価していく。  ➁ワークシートの記入内容や、発言内容、児童同士のやりとりで評価する。 |
| 道徳 | ①意見を発表する児童が固定化している。  ②自分を振り返って、経験を思い出させる、丁寧な指導が必要である。 | 1. 同じ意見でも自分の言葉で発言させたり、ペアで伝え合う時間を設けたりする。ワークシートへの記述をさせて自分の考えを主張できるようにする。   ②自分の経験を振り返る時間を取る。発表する必要がないことを伝え、正直に振り返ることができるようにする。 | ①ワークシートへの取組や友達の発言に対する反応で評価をする。  ②授業中の発言の内容で評価する。ワークシートの記入内容で評価する。 |
| 総合的な学習 | 1. 身近な生活の中にある課題を見付け、情報を集め、整理分析し、まとめていく学習過程を体験することができた。   ②調べたことをまとめ、表現する技能を高める必要がある。 | ①児童が主体的に課題を設定していけるような単元構成を検討していく。   1. 課題をまとめるときの視点や発表するときのポイントを指導する。自分の考えを表現する経験を増やす。 | 1. 授業中の発言や記述、友達の発言に対する反応で評価する。   ②まとめた資料や発表の内容で評価する。 |
| 特別活動 | 1. １単位時間の学級会で、合意形成を図るための議事進行の仕方を指導していく必要がある。 2. 係・当番活動では、学級のために進んで活動しようとする児童が多い。見通しをもって活動に取り組めるようになるために、支援が必要である。 | ①学級会の計画を立てる時間を取り、司会グループと学級会の目的や流れを確認する。  ②活動を定期的に、自己評価・反省できるようにする。また、日頃の声掛けを行い、習慣化していく。 | ①時間内に、参加者が納得のいくまとめができたかを振り返らせ、評価する。  ②定期的に活動の振り返りや自己評価をさせ、積極的に活動できているか見取る。 |
| 外国語活動 | ①外国語の音声や、基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーションの中で活用している。  ②外国語を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うための手だてが必要である。  ③声が相手に届かない場合には、コミュニケーションの観点を意識し、相手に伝わる工夫を指導する必要がある。 | ①授業の中で、練習量を確保し、言語活動を中心に授業を組み立てる。  ②様々な例示を挙げることで、ヒントとさせ、練習していく。  ③授業の中で、多く、コミュニケーションや発表の時間を作り、外国語で話すことを日常化していく。 | ①授業中に、一人ずつ発表する場面を設定し、達成度を把握する。  ②授業中に、一人ずつ教師を通過する場面を作り、確認する。  ③自己評価・振り返りシートを確認する。スピーチを実施し、一人ずつを見取る。 |
| 音楽 | 1. 前向きに授業に取り組んでいる。最後まで話を聞いたり、音によく耳を傾けて聴いたりする態度を育てる必要がある。個別指導を必要とする児童もいる。 2. リコーダーに興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。タンギングを確実に身に付ける必要がある。 | ①できるようになったことをたくさん褒め、意欲が持続するようにする。技能が身に付いていない児童には、個別指導をし、定着を図るようにする。  ②個別指導の時間を取り、音の出し方を丁寧に指導する。簡単に練習できる教材を提示し、家庭でも取り組めるようにする。 | ①授業の様子で評価する。  ②課題への取組で評価する。また、個別指導の際にも評価する。 |
| 図工 | ①多くの児童は意欲的に制作している。  ②多くの児童が課題の始まりから、制作、振り返りと見通しがもてるようになってきたが、作業と片付けが切り替えられるように、声掛けが必要である。  ③制作意欲はあるが、知識量や考えの柔軟性などから、一人一人の想像力や表現力に差がある。 | ①学年の力に応じた課題を設定することで、児童がそのねらいを理解して主体的に作品制作に取り組めるようにする。  ②平面では、筆やパレットなど、立体では、はさみ、のり、カッターなどが十分使えるよう課題に組み入れて制作できるようにする。  ③発表会で友達の作品を見たり、考え方を聞いたりして、自分の見方や感じ方を広げる。 | ①児童の取り組む姿勢や作品、掲示での第三者の感想で評価する。  ②振りカードによる自分の作品作りについての振り返りや、友達同士の鑑賞の感想から評価する。  ③時間を計り評価する。同時に児童が説明内容を、実践できていたかで評価する。 |